



安心して住み続けられる町へ

千葉県千葉市緑区 大木戸台シニア支援の会



千葉市東部にある大木戸台団地は、昭和40年代から開発分譲された約380世帯・約700人が住む戸建て中心の住宅地。現在は高齢化率52%と千葉市内でも特に高い割合の地域で一人暮らしの高齢者も非常に多い。「大木戸台シニア支援の会」（代表・木村修二さん）は、「この町で安心して住み続けたい」という住民の持つ思いに寄り添い、自発的なボランティア活動により、助け合いの地域づくりに取り組んでいる。

11月下旬、丘陵地の森林に囲まれた大木戸第一公園において、年に一度の「グラウンドゴルフ大会」が行われた。大木戸台自治会が主催し、大木戸台シニア支援の会（以下、シニア支援の会）、いきいき友の会、ひばり子ども会など地域団体が共催する。

大会は9時から。冒頭、自治会長の岸本さんから「世代を超えたつながりを持たせたい」とご挨拶。グラウンドゴルフにはこの日約40人が参加し、隣の児童公園では、子ども会による企画も行われた。

同時に公園では、新鮮野菜、壺焼き芋、地元高校生の手作りジャムと味噌、焼き立てパン、花苗の販売や、包丁研ぎなどの生活支援サービスの受付、社会福祉法人うぐいす会、あんしんケアセンター土気からの出展もあり、地域をあげての住民手作りのイベントとなった。シニア支援の会は、販売・展示に関する運営全体を担当する。各出展者はシニア支援の会の活動にとって大切な協力者でもある。

シニア支援の会から出展する「壺焼き芋」を作るのはメンバーの安斎さん。30万円の骨董品だという壺を改造して、試行錯誤しながら焼いた芋の糖度は50〜60度と甘くなり皮が焦げない。その隣では、二人の男性が包丁研ぎに精を出している。住民からのたくさんの申し込みに「腕が疲れます」と首藤さん。

新聞紙が切れるようになれば完成だ。

また、「野菜は無（減）農薬栽培のため虫食いがあります」と看板が立ち、白菜一玉150円など新鮮野菜が格安で並んでいる。支援の会のメンバーのうち5〜6名が野菜愛好会として近隣農家から農地を借りて栽培。普段は毎週木曜日に活動拠点「虹の家」の前で販売し住民に人気だ。

社会福祉法人うぐいす会からも出展があり、障がい者の就労支援の一環として、野菜や梅干し、環境植物などを販売する。うぐいす会は大木戸台団地で4年前にはじまった買い物支援（コロナ禍のため現在は休止中）の送迎車を提供するなど、支援の会の活動に欠かせない存在。シニア支援の会の会議にうぐいす会の職員も出席しており、地域の困りごとなどの相談を受けることもある。

パンを販売する「エムズ・ベイク・ハウス」の村松さんは、シニア支援の会の活動拠点「虹の家」に自分の実家の空き家を貸している。虹の家では自らもボランティアとしてパン教室を開催。活動を通じて高齢者とのつながりを実感しているという。

近隣のセレモニーホール「東雲堂」からも職員が来場。友引の日は会場が空いているので地域住民の活動の場として貸し出してもらっているほか、防災の避難所にも使えるように、今後協定を結んでいきたいと考えている。

このような地域の諸団体からの協力があり、シニア支援の会の活動は、立ち上げから5年あまりで住民の間に広く定着している。

シニア支援の会は「高齢者が安心して住み続けられる団地を作ろう」という住民の思いから設立され、高齢者の日常生活支援と、高齢者の孤立を防ぐため、住民同士の助け合いの



しくみを作って活動している。

「見守り・助け合い事業」として、庭木の剪定、買い物支援（買い物代行）、ゴミ出し支援、髪の訪問カット、電球交換、網戸の張り替え、包丁研ぎなども行う。現在は26名のボランティアが登録し、自分の特技を活かして無償で活動する。例えば庭作業の依頼があった場合は、①依頼者の都合のよい日に見る、②見積額を依頼者に伝えて了解を得る、③日程を決める、④作業内容と手順について虹の家で検討する、⑤ボランティアの人数確保と調整、⑥作業開始といった流れで活動を行っている。

「助けてほしい」という依頼に対して、依頼者の気持ちに寄り添い、できるだけのは行おうのがモットーだ。

今後の課題は、ボランティアに若い世代を取り込むこと。子ども会との事業の協力、若い世代のゴミ出し支援や庭作業の支援により、地域におけるボランティアの必要性を知ってもらえれば、と事務局の小川さんは期待を込める。

大木戸台団地には退職後でも、それぞれの特技を活かした仕事をして活躍し、会話を楽しめる場がある。「生きてきた証だからね」と代表の木村さん。元気になってきた大木戸台地区だが、全体から見れば一部の人の参加に過ぎない。もっと多くの人に地域に出て活躍してもらえたらとシニア支援の会は願う。

自分たちで地域を作り上げる楽しさと居場所がある大木戸台団地はこれからの可能性に溢れている。読者の皆さんが、これからも住み続けたいと思う町はどのような町だろうか？

【連絡先】

大木戸台シニア支援の会(事務局:小川里恵さん)
メール:cosmos_satoe@yahoo.co.jp